

2012 年 10 月 27 日

京都市立 元 一橋小学校の調査

(財)京都市埋蔵文化財研究所 小檜山一良

2012 年1月から、東山区本町通り10 丁目下池田町（一橋小学校跡地）で京都市南部小中一貫校の新校舎建設に先立って発掘調査を実施しました。この場所は、平安時代後期の法住寺殿跡の遺跡内に位置しています。

最勝光院は、承安三(1173)年、法住寺殿の南西部に後白河法皇の妃である建春門院（平滋子：平清盛の妻・時子の妹、高倉天皇の生母）の御願により造営されました。

今回の調査地は、最勝光院南部にあたります。史料から、最勝光院内には、御堂・南門・中門・中門廊・透渡殿・南及北卯酉廊、南及北二階廊・透廊・御堂南子午廊（持仏堂）・西対・進物所屋などの建物の存在が知られますが、現在地上に残されている遺構はなく、それらの位置や建物配置はわかっていません。

今回の調査で、最勝光院に係る遺構として、建物地業・柱穴・土坑・土器溜り・整地層などが発見されました。また、下層からは新発見の遺構として奈良時代の建物跡、古墳時代の竪穴住居跡・溝・土坑なども発見されたのであわせて報告します。

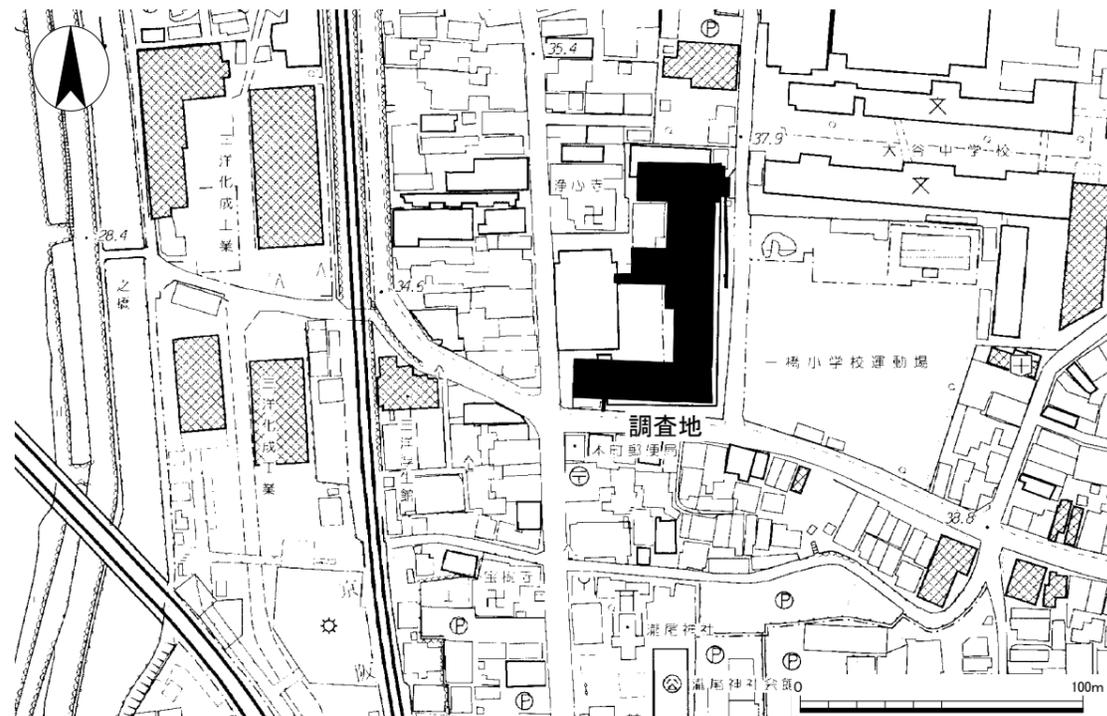


図 1 調査位置図 (1 : 2,500)

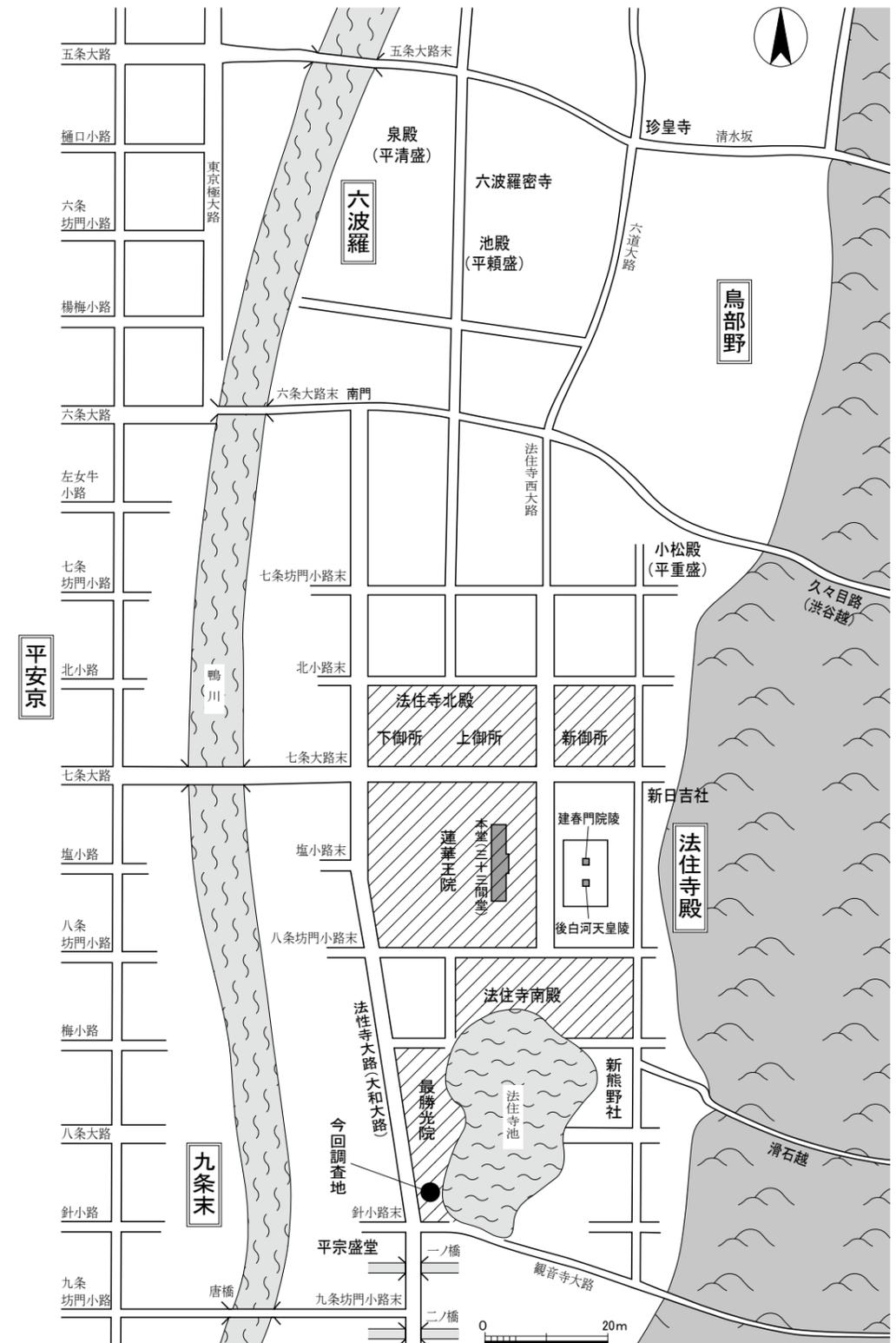


図 2 法住寺殿とその周辺 (1 : 1,000)

表 1 法住寺殿地域略年表

時代	天皇	院	法住寺殿に関連した出来事	最勝光院	関連した出来事
平安時代中期			988 藤原為光が法住寺を供養。 1032 法住寺が焼亡。		
平安時代後期前半	1086 堀河 1107 鳥羽 1123 崇徳 1141 近衛	1086 白河 1129 鳥羽			1086 白河上皇が院政を開始。 1129 鳥羽上皇が院政を開始。
平安時代後期後半	1155 後白河 1158 二条	1158 後白河	1156 後白河上皇が藤原通憲(信西)の法住寺堂へ行幸。 1158 信西の妻(後白河乳母)が法住寺に清浄光院を供養。 1161.4.13 後白河上皇が新造東山御所(南殿)へ移徙、皇后宮同車、同年8.2西御所に渡御、同年8.3七条上御所(北殿)に渡御。 1164 平清盛造進の蓮華王院千体観音堂(三十三間堂)を供養。 仁安年間に南殿を改築・拡張し、1167後白河上皇が渡御、平滋子寝殿に御す。同年5.1七条殿(北殿)新馬場にて競馬あり。 1169 後白河上皇法堂で出家。		1156 保元の乱起こる。 1158 後白河上皇が院政を開始。 1159 平治の乱起こる。
	1165 六条 1169 高倉		1171 後白河法皇と建春門院は、法住寺殿近辺に阿弥陀堂の如き物の建造を企画し、平等院を歴覧。 1172 建春門院が新御堂(最勝光院)を上棟。 1173 供養、同年12.24最勝光院内に小御堂(御持仏堂)を供養。 1174 後白河法皇と建春門院・高倉天皇が、法住寺殿から舟で最勝光院へ渡御。 1175 建春門院が新御所へ渡御。(南御所) 1176 後白河法皇が東山御所で五十宝算の賀を行う。 承安年間に七条殿(北殿)の東西郭を統合。 1177 蓮華王院内の五重塔を供養。 1178 最勝光院内に塔心柱を建立する。		1167 平清盛が太政大臣となる。 1168 平滋子の立后宣言をする。 1169 平滋子が女院号を得て、建春門院と称す。 1176 建春門院が死去。亡骸を蓮華王院東に新造の法華三昧堂に葬る。 1177 鹿ヶ谷の密議起こる。 1179 平清盛が、後白河法皇を鳥羽殿へ幽閉。 1180 福原へ遷都し、後遷都する。 1181 平清盛が平盛国邸で死去。 1183 平家、都落ち。
鎌倉時代	1180 安徳 1183 後鳥羽		1183 法住寺殿の所々に埴を掘り、釘抜を構える。同年、木曾義仲が院御所(南殿)を襲撃、放火する。	1183 後白河法皇が新熊野社から舟で最勝光院へ臨幸。	1183 平家、都落ち。
	1198 土御門 1210 順徳 1221 仲恭 後堀河	1198 後鳥羽	1191 源頼朝、諸国に造営を課して、法住寺殿を再建。 1209 法住寺殿の舎屋を少々壊し、三条西殿(三条烏丸殿)へ移築。 1249 御堂(三十三間堂)・塔・不動堂が焼失。 1266 三十三間堂を供養。 1301 高辻富小路で火事、余炎で最勝光院が類焼。	1185 地震により北釣殿・二階廊・進物所屋など傾倒する。 1191 後白河法皇が最勝光院南萱御所に渡御。 1226 窃盗により堂舎が焼亡。 1227 最勝光院を上棟。 1301 高辻富小路で火事、余炎で最勝光院が類焼。	1185 平氏滅ぶ。頼朝諸国に守護地頭設置。 1192 後白河法皇が死去、源頼朝が鎌倉幕府開く。 1198 後鳥羽上皇院政開始。 1221 承久の乱起こる。

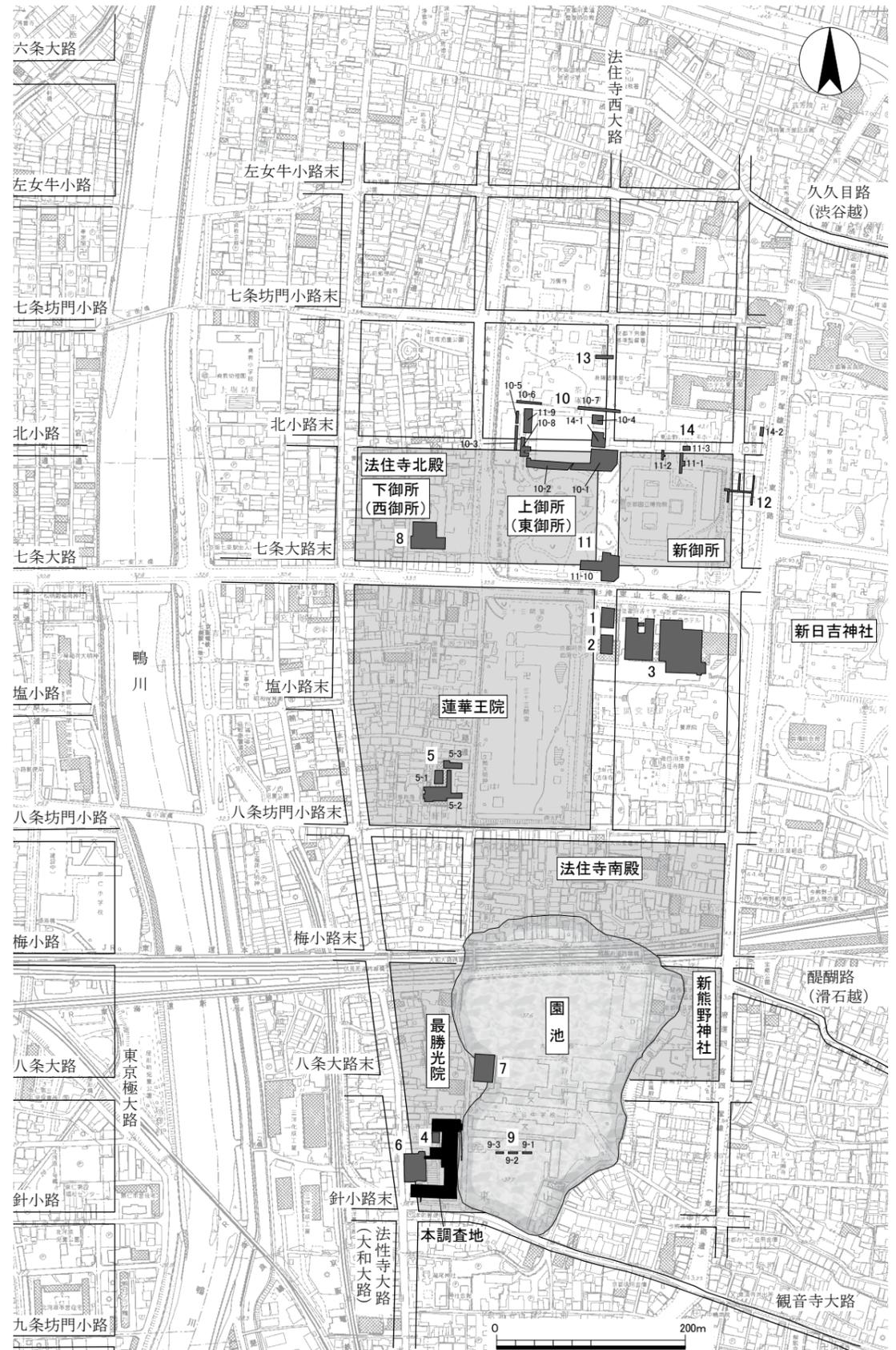


図 3 周辺調査位置図 (1 : 6,000)

表2 周辺での主な調査一覧

No.	調査期間	方法	推定地	所在地	検出遺構	出土遺物	文献
1	1965.11.05～12.16	発掘	法住寺南殿	東山区三十三間堂廻町644(赤十字血液センター)	調査区南半部で平安時代後期の包含層を検出し、上面は東側に向かってわずかに高くなる。上層では江戸時代の園池跡・建物跡等を検出した。	平安時代後期の瓦類が、包含層から出土した。	11
2	1976.12.01～1977.01.31	発掘	法住寺南殿	東山区三十三間堂廻町(赤十字血液センター)	平安時代後期の遺構は未検出である。全域で室町時代の包含層を検出した。上面で室町時代～江戸時代の建物・櫓・石敷・土坑・溝等を検出した。	平安時代後期の瓦類が包含層などから出土した。中世～江戸時代の土師器・陶器等も出土した。	12
3	1978.07.20～11.20	発掘	法住寺南殿	東山区三十三間堂廻町644の2(パークホテル)	調査区中央部で平安時代後期の南北溝(1-P溝:幅2m・22m検出)を検出した。中央南端で鎌倉時代の方形溝(W8溝:幅0.85m・一辺7.9m)甲冑を埋納した方形土坑(W10土坑:一辺3.2m・深0.5m)を検出した。方形溝の内側は仏堂、土坑は墓と推定された。調査区北部で中世の井戸7基を検出した。	平安時代後期～鎌倉時代の瓦が井戸から大量に出土した。中世の土器類が井戸を中心として少量出土した。	17
4	1982.10.16～11.15	発掘	最勝光院	東山区本町通10丁目下池田町527(一橋小学校給食室)	全域で平安時代後期の建物基壇(規模不明)を検出、上面に轍跡がある。基壇下層で掘立柱建物(SB1:東西2間・南北3間以上)を検出した。	平安時代後期の土器類が、基壇下層の包含層を中心に出土した。	15
5	1983.04.21～06.24	発掘	蓮華王院	東山区大仏南建仁寺上ル七間町575(ネオコーポ東山)	調査地東端部で平安時代後期の南北街路(SF5、西側溝SD4:幅1.4m・深0.3m)を検出した。同時期の南北棟建物を調査地北部で1棟(SB3:東西幅11.7m・西側に付属施設有り)、中央部で1棟(SB2:東西9.1m・南北12.2m)、西端部で1棟(SB1:東向き向拝幅10.7m・出0.9m)を検出した。いずれも上面が削平されるが、石組み雨落溝が廻る。建物はいずれも焼失する。全域で中世以降の遺構を検出した。	平安時代後期の瓦類が側溝・後世包含層から、土器類が建物雨落溝から少量出土した。	18
6	1983.06.01～09.03	発掘	最勝光院	東山区本町通10丁目下池田町527(一橋小学校体育館)	調査区西側で平安時代後期の南北溝(SD2:幅1.6m・深0.5m)を検出し、溝の西側は路面、東側は一段高まり、南北築地と推定された。築地推定地の下では石積み地業を検出した。鎌倉時代の溝・井戸などを調査地北東部で検出した。	平安時代後期の瓦類、環珞などが井戸から出土した。	19
7	1983.07.19～11.03	発掘	最勝光院	東山区今熊野池田町(大谷中・高等学校)	調査区北側で平安時代後期の園池南側汀線を検出した。調査区南部で同時期の東西方向水路(幅4.5m・深1.5m・5ヶ所板列あり)を検出した。下層で平安時代中期の窯跡を検出した。	平安時代後期の瓦類が瓦溜・園池等から大量に出土、水路・園池から土器類が出土した。	16
8	1990.06.02～08.23	発掘	法住寺北殿	東山区大和大路正面下ル大和大路2丁目543(駐車場)	調査区南東部で平安時代後期の井戸(SE211:1.8×2)を1基、全域で柱穴・土壇を少数検出したが残存状況は悪い。調査区中央部で鎌倉時代の南北棟西門(SB157:3×2間)と南北両側に取り付く塀(SA150)を検出した。これらの西側と東側には同時期の溝(SD8・140)がある。全域で中世以降の土坑等を検出した。	平安時代後期の瓦類・土器類が井戸から少量出土した。鎌倉～室町時代の土器が各遺構から大量に出土した。	28
9	1996.11.11～11.16	試掘	法住寺南殿	東山区本町通10丁目下池田町527(一橋小学校プール)	調査地東側で弥生時代～古墳時代の大型円形遺構を検出。西側で平安時代後期～鎌倉時代の掘込地業を検出。西端で鎌倉時代～室町時代の柱穴。		33
10	1998.06.01～1999.03.31	発掘	法住寺北殿(方広寺)	東山区茶屋町527(京都国立博物館新館周辺)	南側の調査区(2・1区)では、桃山時代の方広寺大仏殿南門(3×2間)とそれに取り付く東側回廊(復廊)を検出した。門西側では回廊南側で石垣(高さ2m)、南西部で梵鐘鑄造遺構を検出した。北側の調査区(4・7区)では、平安時代後期の南北溝2条(溝149・溝26・溝299:幅0.6～0.8・深0.3)と間に石敷遺構を検出し、両溝間は街路と推定。全域で鎌倉～室町時代の溝・柱穴・土坑・井戸・石敷遺構等を検出した。西側の調査区(8区)では、平安時代前期の埋納遺構・土坑61、鎌倉～室町時代の南北道路と側溝・池状遺構等を検出した。	平安時代後期の瓦類・土器類が4・7区溝等から少量出土した。鎌倉～室町時代の土器・瓦類が溝・井戸・包含層等から出土した。桃山時代の瓦類・土器類・鑄造関係遺物が1・2区から大量に出土した。	35
11	1999.07.01～2000.03.21	発掘	法住寺北殿(方広寺)	東山区茶屋町527(京都国立博物館新館周辺・南門)	南側の調査区(10区)では、平安時代前期の土坑(326)・後期の東西溝1条(276:幅0.5～0.6m・深0.15m)を検出した。全域で鎌倉時代の東西溝(281)・南北溝(273・252)・井戸(250)・土坑・柱穴等を、室町時代の掘込遺構・溝・土坑・柱穴等を検出した。桃山～江戸時代の南北道路と両側溝を2時期検出した。北側の調査区(9区)では、鎌倉時代の南北溝、鎌倉～室町時代の建物・溝・柱穴・土坑等を検出した。	平安時代後期の瓦類・土器類は、溝・土坑から少量出土し、大半は後世遺構に混入する。鎌倉時代の土器類は、10区井戸・9区溝から出土した。室町～江戸時代の土器・瓦類は、遺構・整地層等から出土した。	36
12	2000.07.03～08.23	発掘	東部	東山区茶屋町527(京都国立博物館東部)	全域で平安時代～鎌倉時代の柱穴・土坑等を少数検出した。全域で室町時代の遺物包含層・溝・土坑・柱穴を検出した。全域で江戸時代の井戸・土坑・柱穴等を検出した。	平安時代～鎌倉時代の土器類が少量出土した。鎌倉～江戸時代の土器・瓦類が少量出土した。	39
13	2002.07.22～08.09	発掘	北部(方広寺)	東山区茶屋町(豊国神社)	桃山時代の方広寺大仏殿基壇西辺を検出した。	桃山時代の瓦類が、全域から少量出土した。	40
14	2009.09.07～11.13	発掘	北部(方広寺)	東山区茶屋町527(京都国立博物館新館・東側)	平安時代後期の門、路面、道路側溝を検出。鎌倉時代～室町時代の門、柱列、路面、溝、埋納遺構、土坑、掘を検出。桃山時代の石敷路面、整地層、土坑を検出。	平安時代の土師器、須恵器、輸入陶磁器、瓦等が出土した。鎌倉時代～室町時代中期の土師器、須恵質土器、輸入陶磁器、瓦質土器、焼締陶器、木製品、砥石、瓦などが出土。室町時代後期～桃山時代の土師器、輸入陶磁器、瓦質土器、焼締陶器、瓦、鉄製品等が出土。江戸時代後期～明治時代の染付、近世陶磁器、瓦などが出土した。	42
本調査	2012.01.11～07.30	発掘	最勝光院	東山区本町通10丁目下池田町257(元一橋小学校)	古墳時代初期の堅穴住居、溝、土坑を検出。奈良時代の掘立柱建物を検出。平安時代中期の土取り穴、後期の建物地業、土坑、柱穴、路面、道路側溝、濠を検出。鎌倉時代前期の井戸を検出。室町時代の路面、道路側溝、柱穴、土坑を検出。近世以降の柱列、井戸、土坑、溝などを検出。	弥生時代後期と古墳時代初期の土器類が出土。奈良時代の土器類が出土。平安時代の土師器、須恵器、緑釉陶器、黒色土器、瓦器、輸入磁器、瓦、金属製品、木製品等が出土。鎌倉時代～室町時代の土師器、瓦器、焼締陶器、施釉陶器、瓦類、金属製品等が出土。近世以降の土師器、近世陶磁器等が出土。	本調査

※文献の番号は資料末の「参考文献」の番号

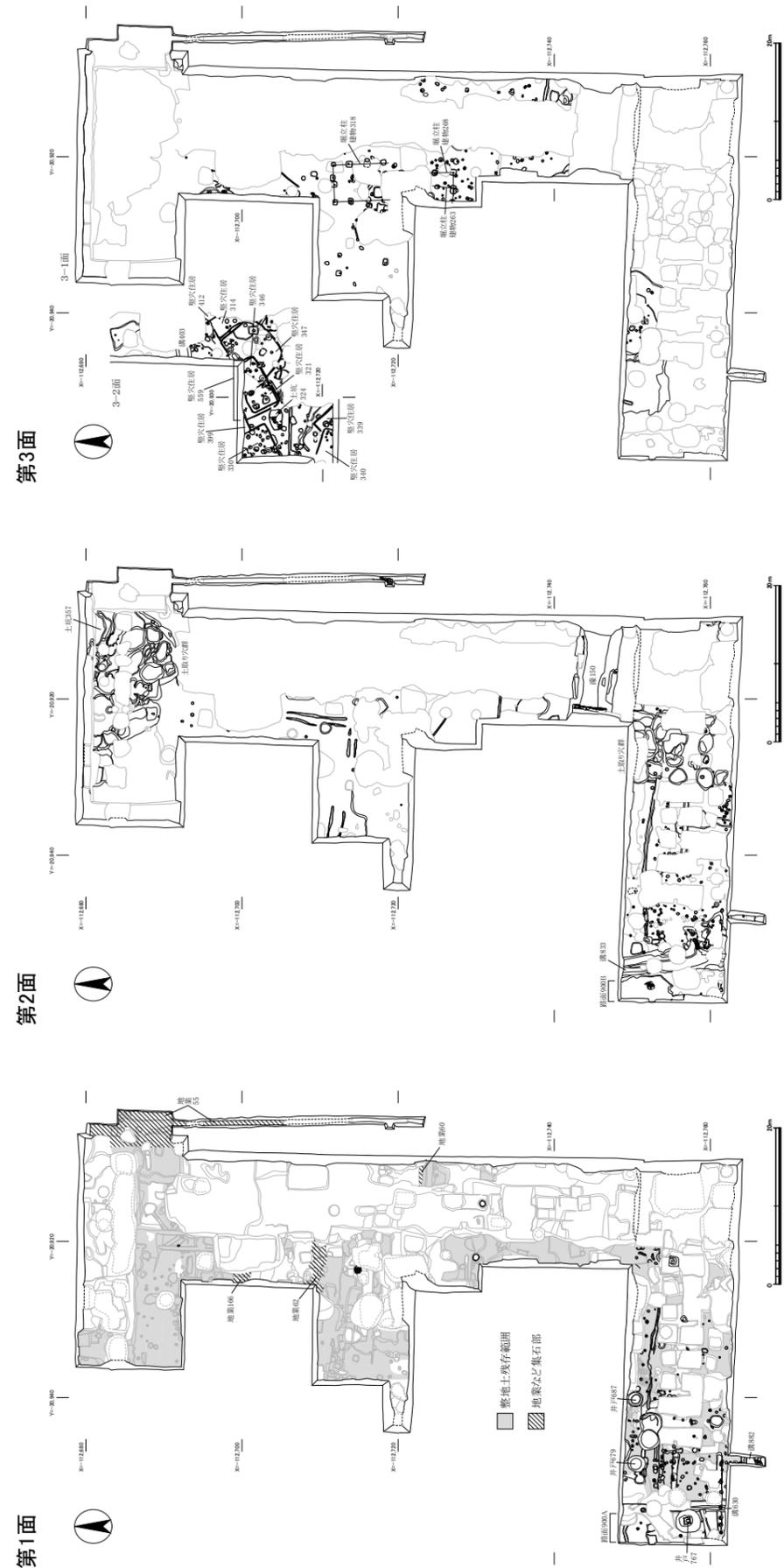


図4 一橋小主要遺構配置図(1:800)

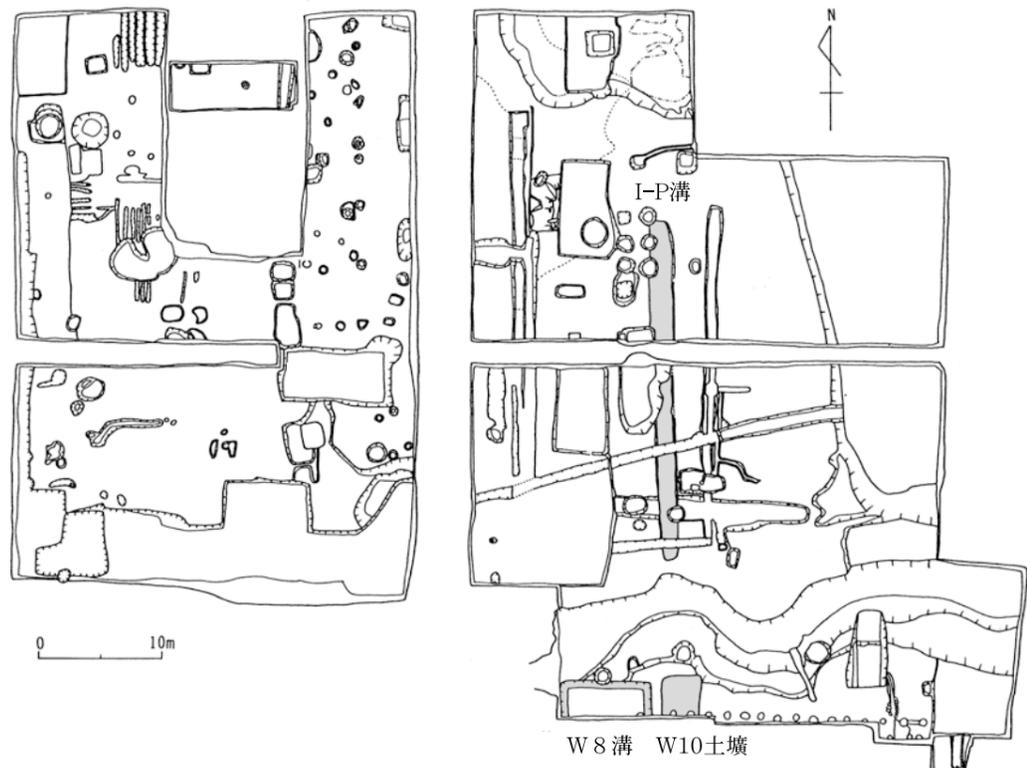


図 5-1 調査 3 遺構配置図 (1 : 600) [文献 17]

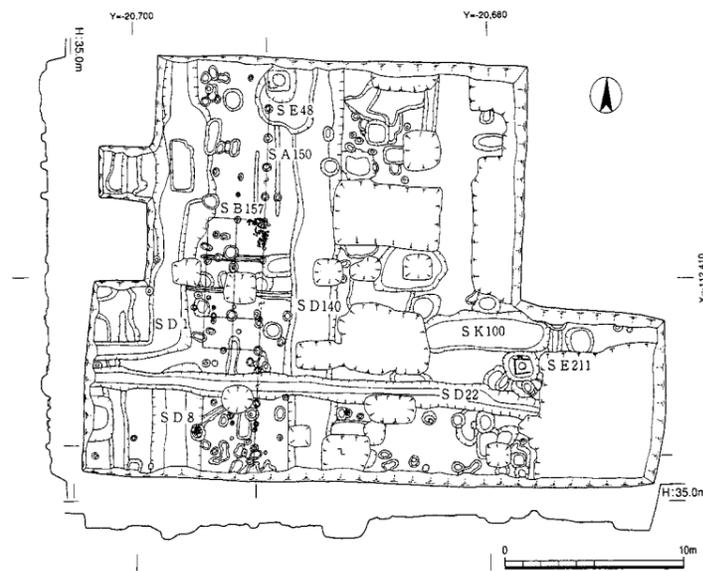


図 6 調査 8 遺構配置図 (1 : 400) [文献 28]

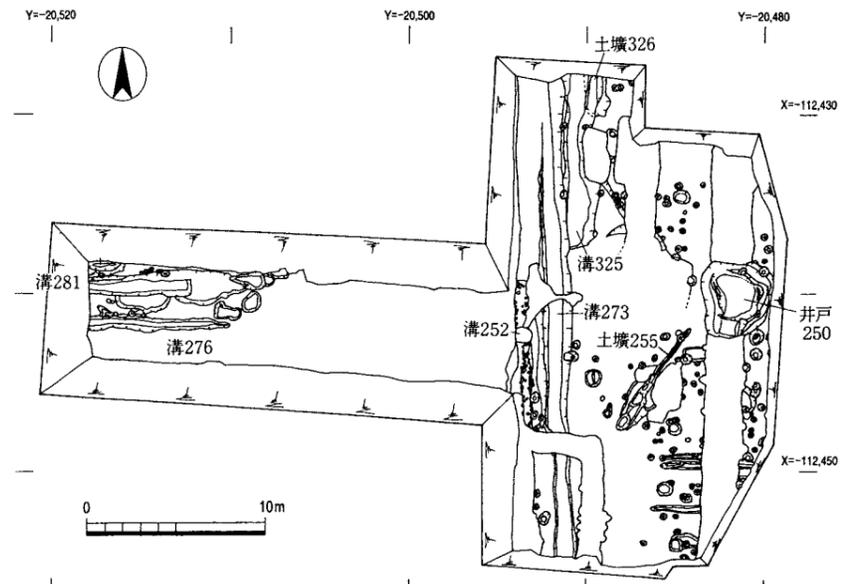


図 7 調査 11 遺構配置図 (1 : 400) [文献 36]



図 5-3 法住寺殿跡出土鉄形



図 5-2 法住寺殿跡出土鎧

W10 土壙 (墓) から出土した甲冑 (図 5-2・5-3)
 死者を葬るに際して甲冑を裏向けに重ねて埋納したものと
 考えられる、鎧 5 領以上、兜の鍬形、弓矢、馬具などが出
 土しており、同時に出土した土器から見て、この土坑と甲冑
 の年代が 12 世紀なかごろから 13 世紀初めの半世紀ごろの
 ものであることが確認された。出土位置が院の御所の中であ
 ることと、甲冑から見てこの被葬者は院と近い関係にあった
 武将と推定される。[文献 27]

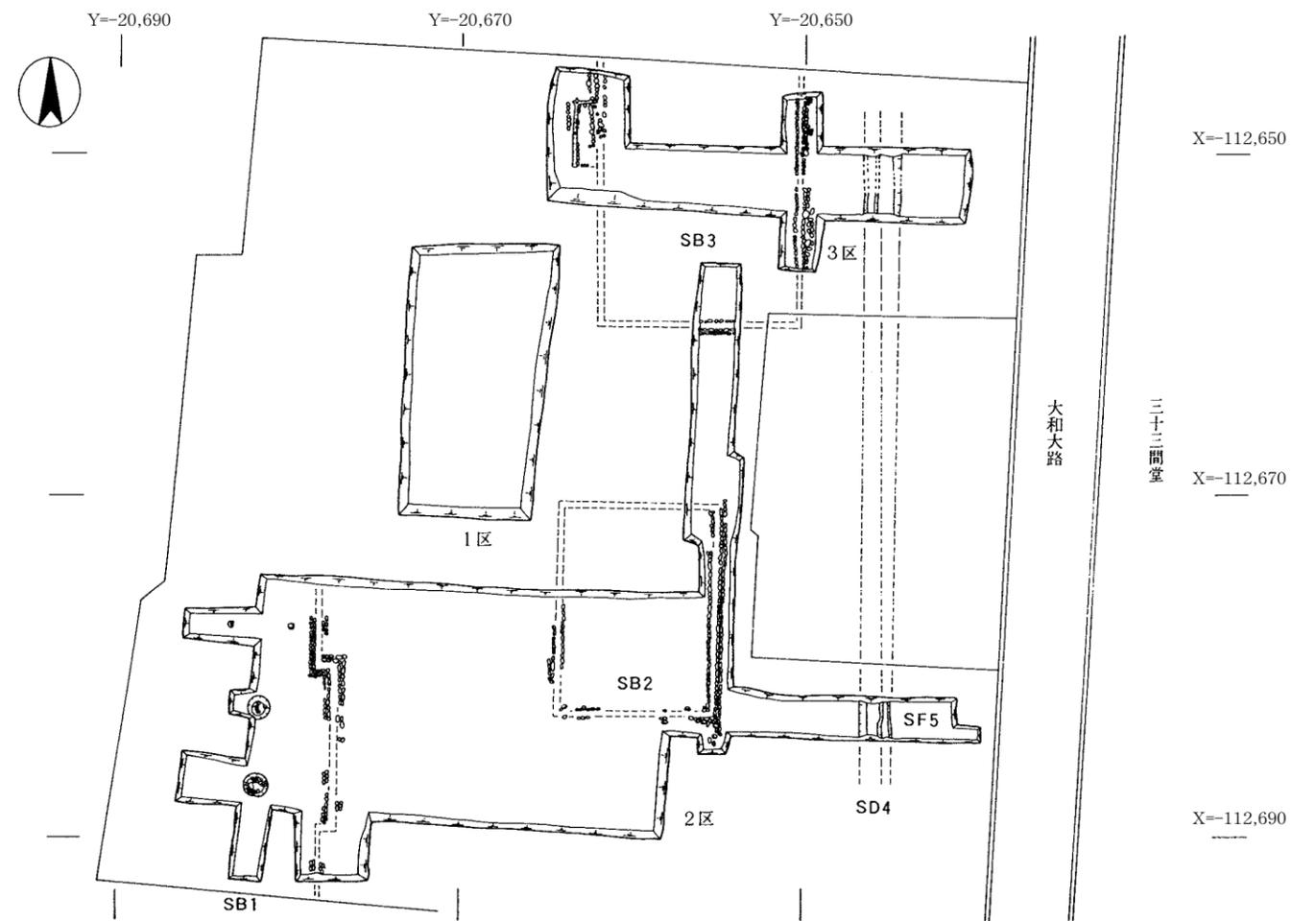


図 8 調査 5 遺構配置図 (1 : 400) [文献 18]

最勝光院について

- ・承安元(1171)年、建春門院は法住寺殿内の法住寺池の西側に阿弥陀堂を企画し、法皇とともに宇治の平等院を訪れる。
- ・翌年には着工、承安三(1173)年、新御堂・小御堂(持仏堂)が完成し、鐘楼の棟上げ。
- ・承安五(1175)年、建春門院は院内に新造された南御所に移る。
- ・翌、安元二(1176)年、建春門院は最勝光院において35歳で薨去、蓮華王院の東側に葬られる。
- ・その後、治承二(1178)年、塔心柱を建立。治承五(1181)年、法皇が新熊野社から舟で臨幸、最勝光院は法皇によりしばらく使用される。
- ・藤原定家は、最勝光院の建物の美しさを「土木の華麗、荘厳の華美、天下第一之仏閣也」と賞賛。

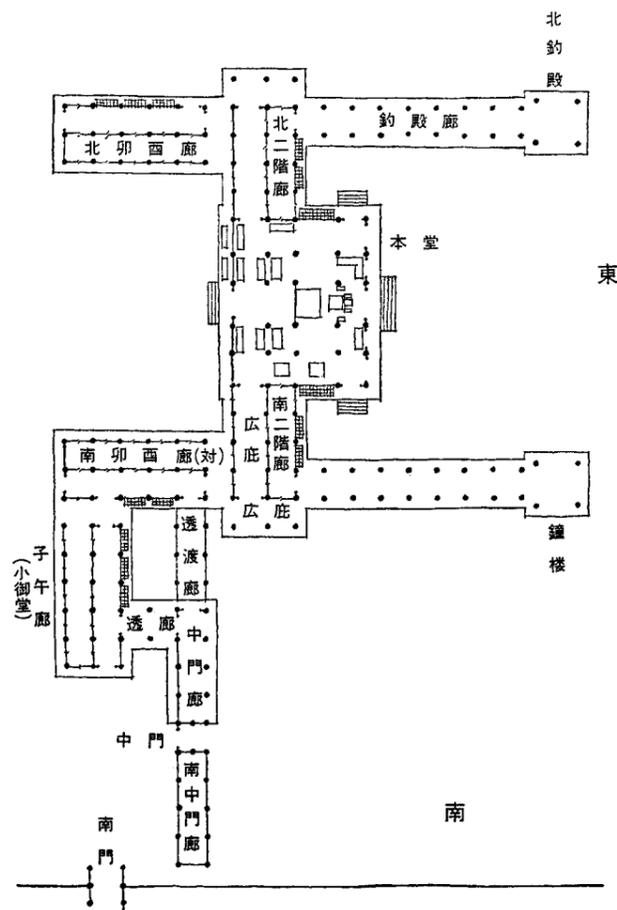


図9 最勝光院御堂推定図 [文献10]

史料にみる最勝光院内の建物

- 『百鍊抄』鎌倉時代後期成立の歴史書
- 『玉葉』九条兼実(1149-1207 摂政・関白)
- 『吉記』吉田経房(1143-1200 大納言)

- 御堂・南門・中門・中門廊・透渡殿
- 南及北卯西廊・南及北二階廊・透廊
- 御堂南子午廊(持仏堂)・西対・進物所屋

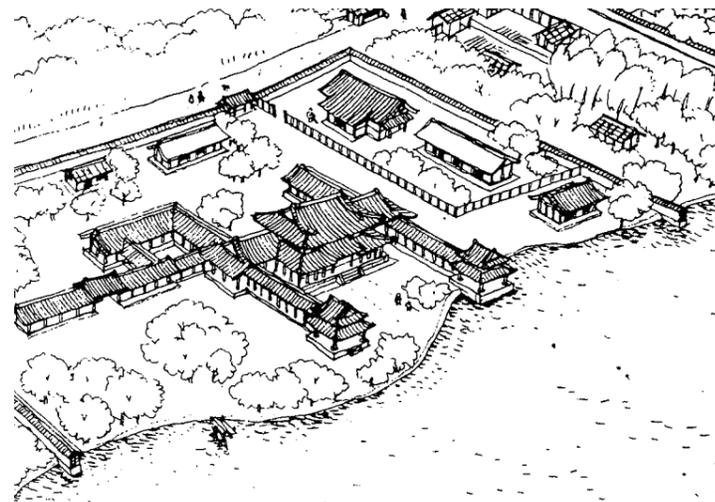


図10 最勝光院復元イラスト [文献23]



図11 最勝光院復元模型 [平安京創生館]



図12 地業55(北西から)



図13 地業55断面(南西から)

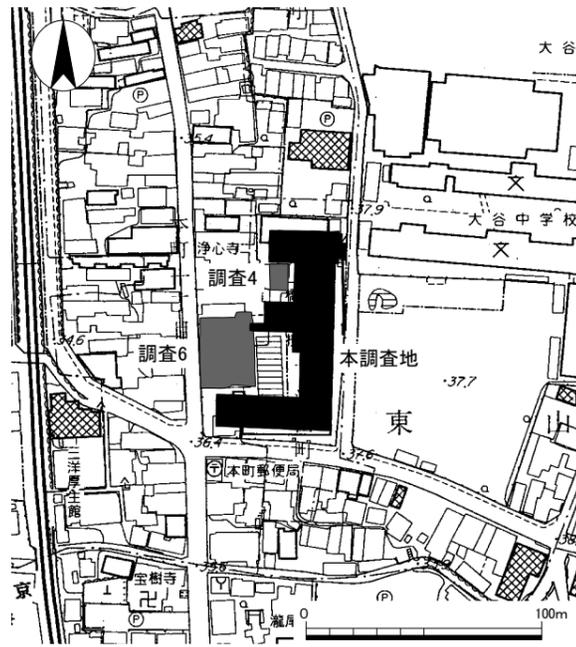


図 14 調査 4・6 位置図 (1 : 3,000)

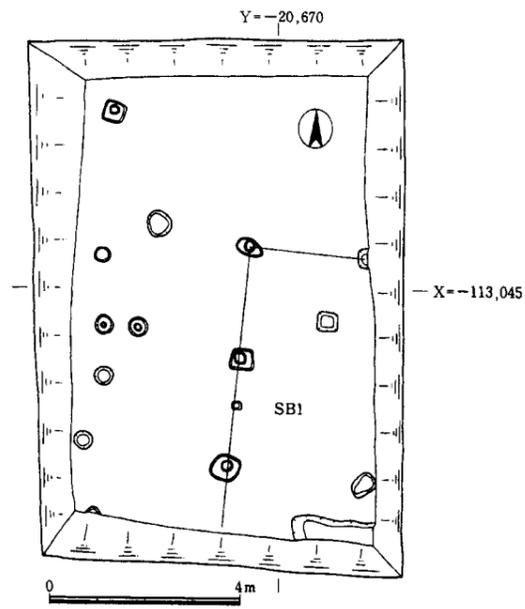


図 15-1 調査 4 遺構配置図 (1 : 150) [文献 15]



図 15-2 調査 4 轍跡 (西から)



図 16-4 調査 6 井戸 SE1 出土飾金具

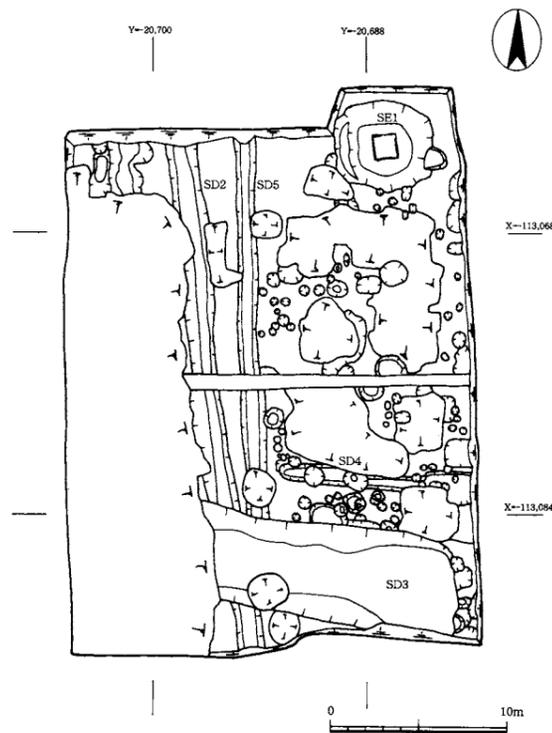


図 16-1 調査 6 遺構配置図 (1 : 400) [文献 19]

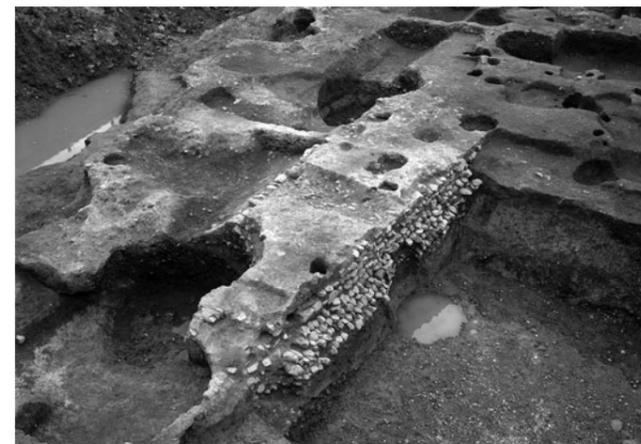


図 16-2 調査 6 築地地業 (南東から)



図 16-3 調査 6 井戸 SE1 (北から)



図 16-5 調査 6 出土瓦 (西から)

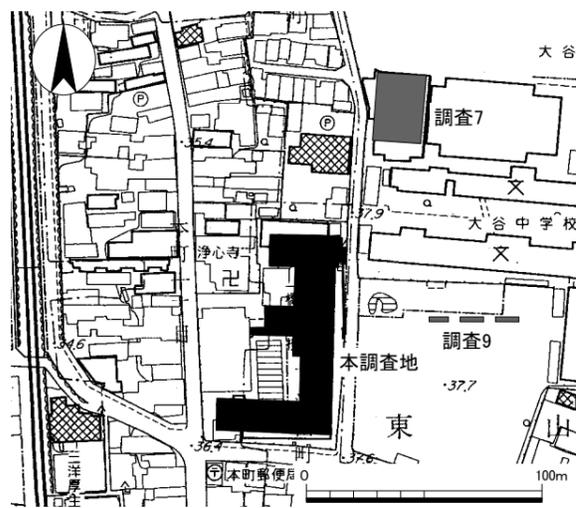


図17 調査7・9位置図 (1:3,000)

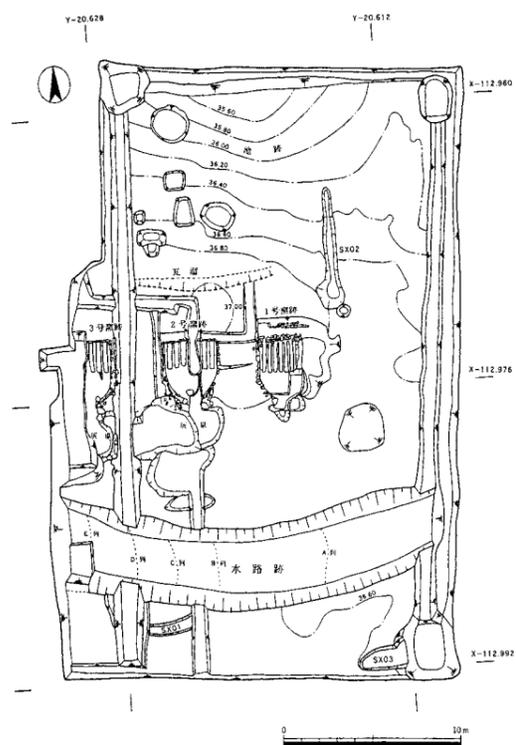


図18-1 調査7遺構配置図 (1:400) [文献16]



図18-2 調査7全景 (北から)



図18-3 調査7出土瓦1



図18-4 調査7出土瓦2

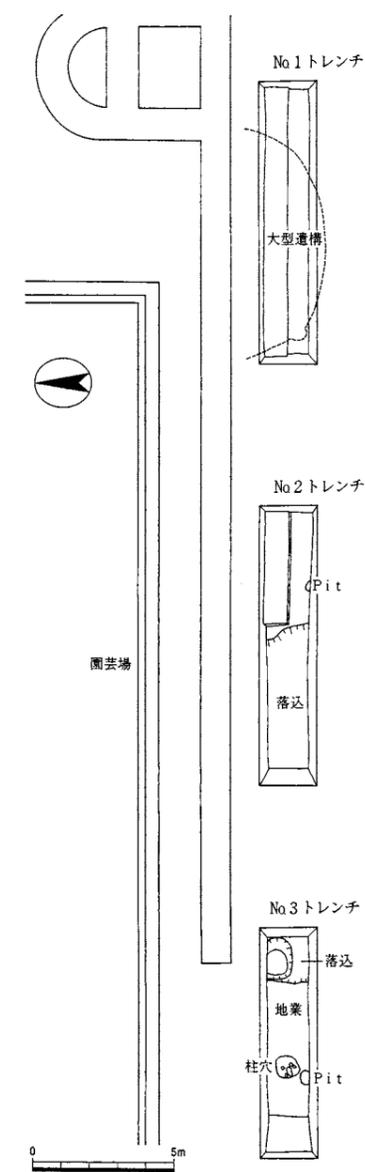


図19-1 調査9遺構配置図 (1:250) [文献33]



図19-2 調査9 No.3トレンチ (東から)

参考文献

- 『百練抄』新訂増補国史大系
- 『玉葉』国書刊行会叢書
- 『吉記』増補史料大成
- 『明月記』国書刊行会叢書
- 『帝王編年記』新訂増補国史大系
- 森 幸安『中古京師内外地図』1748年〔『改訂増補 故實叢書』明治図書 1993に再録〕
- 杉山信三「法住寺殿の御堂と蓮華王院－法住寺殿の御所に関する研究1－」『日本建築学会研究報告』第36号、日本建築学会 1956年
- 杉山信三「法住寺殿の規模と位置について」『建築史研究』23号、建築史研究会 1956年
- 村田治郎・杉山信三「蓮華王院の建物」『三十三間堂』妙法院編、三十三間堂奉賛会 1961年
- 杉山信三『院の御所と御堂－院家建築の研究』奈良国立文化財研究所学報第11冊、奈良国立文化財研究所学報第11冊 1962年
- 京都府教育委員会『埋蔵文化財発掘調査概報 1965-1967』京都府教育委員会 1967年
- 吉村正親『法住寺殿跡 血液センター発掘調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所（以下市埋文研と略す）1976年
- 近畿郵政局六波羅政庁跡発掘調査団『六波羅政庁跡 東山郵便局新築敷地埋蔵文化財発掘調査報告』近畿郵政局六波羅政庁跡発掘調査団 1977年
- 杉山信三『院家建築の研究』吉川弘文館 1981年
- 久世康博・吉川義彦「法住寺殿跡」『昭和57年度京都市埋蔵文化財調査概要』市埋文研 1984年
- 杉山信三・木村捷三郎・青山均・長谷川行孝他『大谷中・高等学校校内遺跡発掘調査報告書』大谷高等学校法住寺殿跡遺跡調査会 1984年
- 寺島孝一・片岡 肇・植山 茂他『法住寺殿跡』平安京跡研究調査報告第13輯 古代学協会 1984年
- 久世康博・上村和直「法住寺殿跡」『昭和58年度京都市埋蔵文化財調査概要』市埋文研 1985年
- 平尾政幸・梅川光隆・辻純一「法住寺跡」『昭和58年度京都市埋蔵文化財調査概要』市埋文研 1985年
- 太田静六『寝殿造りの研究』吉川弘文館 1987年
- 川本重雄「法住寺殿の研究」『建築史論叢』稻垣栄三先生還暦記念論集 中央公論美術出版 1988年
- 久世康博「法住寺殿跡」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和62年度』京都市文化観光局 1988年
- 五味文彦『鎌倉と京』大系日本の歴史5、小学館 1988年
- 江谷 寛「法住寺殿の考古学的考察」『後白河院 動乱期の天皇』吉川弘文館 1993年
- 網 伸也「平安京左京二条二坊・高陽院跡2」『平成元年度京都市埋蔵文化財調査概要』市埋文研 1994年
- 上村和直「院政と白河」『平安京提要』角川書店 1994年
- 江谷 寛「法住寺殿」『平安京提要』角川書店 1994年
- 上村和直・西大條哲「六波羅政庁跡」『平成2年度京都市埋蔵文化財調査概要』市埋文研 1994年
- 高橋 潔「六波羅政庁跡」『平成元年度京都市埋蔵文化財調査概要』市埋文研 1994年
- 鈴木廣司・山本雅和「六波羅政庁跡」『平成5年度京都市埋蔵文化財調査概要』市埋文研 1996年
- 吉村正親「白河街区跡」『平成6年度京都市埋蔵文化財調査概要』市埋文研 1996年
- 小松武彦・吉村正親・小檜山一良「平安京右京一条四坊・法金剛院境内」『平成8年度京都市埋蔵文化財調査概要』市埋文研 1998年
- 小森俊寛「法住寺殿跡」『平成8年度京都市埋蔵文化財調査概要』市埋文研 1998年
- 臈谷 寿『平安貴族と邸第』吉川弘文館 2000年
- 近藤知子・田中利津子・大立目一「六波羅政庁跡」『平成10年度京都市埋蔵文化財調査概要』市埋文研 2000年
- 近藤知子・田中利津子・大立目一「六波羅政庁跡」『平成11年度京都市埋蔵文化財調査概要』市埋文研 2002年
- 川上 貢・前田義明・鈴木久男他『鳥羽離宮跡Ⅰ 金剛心院跡の調査』市埋文研 2002年
- 近藤知子・田中利津子「方広寺大仏殿跡」『平成12年度京都市埋蔵文化財調査概要』市埋文研 2003年
- 田中利津子「六波羅政庁跡」『平成12年度京都市埋蔵文化財調査概要』市埋文研 2003年
- 田中利津子「方広寺大仏殿跡」『京都市内遺跡発掘調査概報 平成14年度』京都市文化市民局 2003年
- 上村和直「法住寺殿の成立と展開」『研究紀要』第9号 市埋文研 2004年
- 網伸也・田中利津子ほか『法住寺殿跡・六波羅政庁跡・方広寺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2009-8 市埋文研 2010年